

白蓮寺開教五十周年記念法要のご案内

——令和十年十二月三日（日） 勤修——

平素は、白蓮寺の教化活動にひとかたならぬご厚情とご協力をたまわり、厚くお礼申しあげます。

さて、来る令和十年十二月三日（日）白蓮寺開教五十周年記念法要を勤修致します。

白蓮寺の歴史は、初代住職が岩手県大船渡市の西法寺から、縁あり京都の東本願寺への勤めに出てきた事から始まった様に思います。

そこで坊守と出会い、そこからまた縁あつて昭和五十三年七月二十八日、家族四人でこの草加の地に降り立ちます。

初代住職は何よりも”心”を大切にここまで来ました。「開教とは他者の教化にはありませず、徹頭徹尾それは自己一人の聞法なり」又、「開教とは常にソフトの事なり、ハードは自然に付随す。」と申しており、自身にとつて最も愛すべき人と別離せねばならなかった、無限の悲しみを抱かなければならなかった人びとをこそ何よりも誰よりも大切にしておりました。

この「ハード」「ソフト」という言葉は五十年近く経つ今でも私に良く話してくれます。「ハード面も勿論大切だが、ソフト面を蔑ろにしてはいけない。」と、目に見えない部分を大切にしていきなさいと教えてもらいました。

初代住職は自らを「開教者」ではなく「受教者」だったように思うと振り返っており、それはこれまで出遭った（初代住職の言葉を用いるならば再開）数々の人々こそが、私自身を開教くだされました善知識の佛面々にてございました。と話しております。

草加市長栄町に開教所白蓮寺開設後、平成十年十五日、多くの方々からのご協力を賜り草加市柿木町の地に念願の本堂が完成しました。それまでには紆余曲折あり、悲願の本堂設立だったと聞いております。

そして開教より三十四年後の平成二十四年九月、二代目住職によってご本山でございます【宗教法人真宗大谷派（東本願寺）】との包括関係の設立に十一年かけて完了し、晴れて真宗大谷派白蓮寺としての「名乗り」が始まりました。

これまでの白蓮寺五十年の歴史には、初代住職、二代目住職、またそれを支えてきた坊守や副住職の努力や苦労だけではなく、数え切れない方々のご理解とご協力、そして数多くのご縁を賜りまして、今日を迎えられております。またこのご縁という言葉も、人との出会い一つを指して「縁」と申している訳ではございません。「偶然だねえ」と一言では済ませられない様な人と人との繋がりが多くありました。初代住職はこれを「サムシング・グレート。何か神仏のようなものがつくられたプログラムなんじゃないか。」そう法話の中で良く話しております。

このご縁はこれからも私どもと皆様と、大切なあの方とを紡いでいってくださることだと、そう信じて皆様と一緒に歩んでいきたいと思う次第でございます。

この想いを是非とも皆様と共有し、朋に白蓮寺の五十年を振り返り、そして白蓮寺を永代に護持していくための法会として、白蓮寺開教五十周年記念法要を勤修したいと願う事でございます。

なお式典等の詳細につきましては、「蓮香」およびホームページにてご案内させていただきます。

合掌

釋聖蓮（候補衆徒・三代目住職予定者）